

景観資材としての木製ガードレールの評価

技術部 製品開発グループ 今井 良

研究の背景・目的

〔(独)土木研究所寒地土木研究所地域景観ユニットおよび北海道産木材利用協同組合との共同研究「公共工作物への木材利用に関する研究」(H23～24)で実施した調査結果の抜粋〕

国土交通省は、これまでの社会基盤整備は景観への配慮を欠いてきたという反省から、平成15年「美しい国づくり政策大綱」および「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン」を策定し、ガードレールにも景観への配慮を求めるようになりました。以後、景観を邪魔しないデザインが重視されるようになり、木材を用いた木製ガードレールの開発も全国で相次ぎました。平成22年に林産試験場と企業とで実用化した「北海道型木製ガードレール(商品名:ビスタガード)」も景観に配慮した防護柵として更なる普及の加速化を図るため、SD法※を用いたアンケート調査による景観評価を実施し、従来のガードレールに比べて景観効果がどのくらい高いのか調べました。

※SD法：対立する形容詞対を用いて感覚的なイメージを5段階(もしくは7段階)の尺度を用いて判別する方法

研究の内容・成果

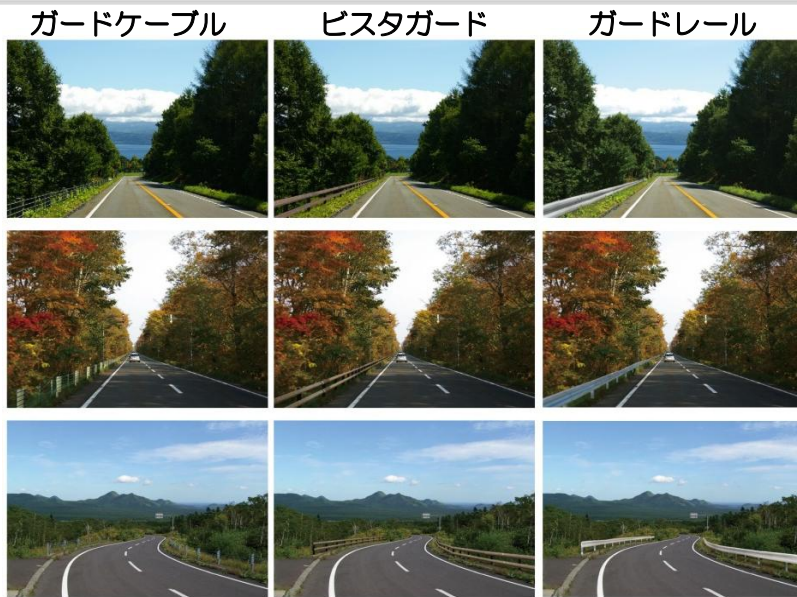


図1 インターネットを利用した調査で用いた合成写真の例



図3 実際の施工物(実物)

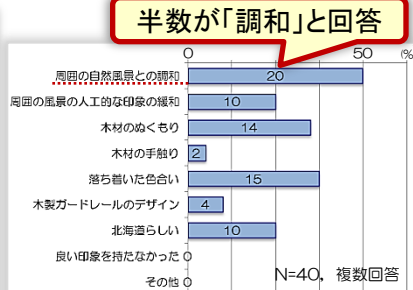


図4 ビスタガードに良い印象を持った理由

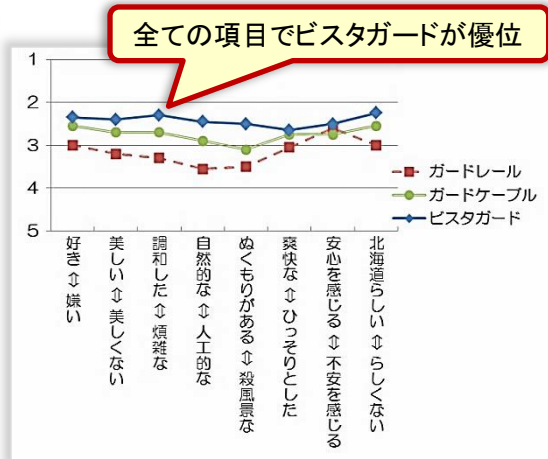


図2 インターネットを利用した調査結果

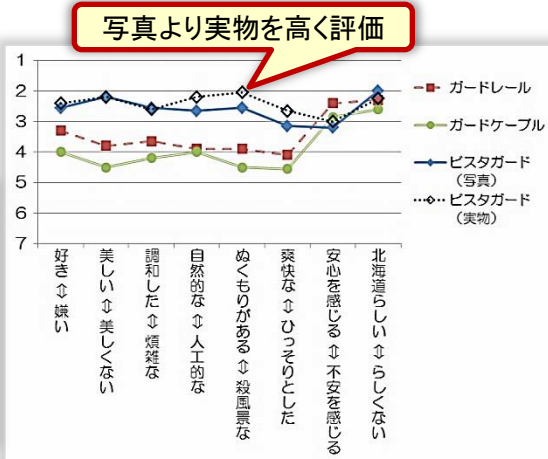


図5 印刷写真と実物を利用した調査結果

インターネットによる調査(図1)では森林、湖畔、丘陵等の20種類の風景を用いて8項目について印象評価を行いました。その結果、ほぼ全ての風景でビスタガードが最も高い評価が得られました(図2)。

実物を用いた調査(図3)では、アンケート用紙にガードレールやガードケーブルの合成写真も載せて回答してもらいましたが、インターネット調査の結果と同様にビスタガードが最も高く、かつ実物の方がさらに高い評価が得られました(図5)。自然風景との調和や木材特有のぬくもり等が評価の決め手と推測されます(図4)。